



ひがしかわさぶろう
東川三郎 議員

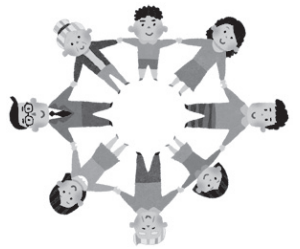
まちづくりに 具体的なテーマを

議員 すでに全地区設立後4年半経過したが、効果が見られず、どこに進むのか見当もつかない。より詳細で具体的なテーマを示す必要があるのでは。

市長 まちづくり協議会は、まちづくりの役割を認識し機能と能力を備えた小さな市役所である住民自活組織となることを理想とする。既に実践している地区には取り組みを維持してもらい、道半ばの地区には、自ら課題解決できるような助言等行っていきたい。

議員 まちづくりに人は人と人の繋がりが一番大切。その意味で「向こう三軒両隣」のような、市民全体がつながるテーマで取り組んでもらいたい。

副市長 環境を整えるのが市役所



の役割であり、議員の言われる人情のあるつき合いも大事だと思うので、それも含め考えていきたい。

活気ある住みよい まちを目指して

議員 「現行の公共交通を3年をめどに立て直す」とのことだが、計画はあるのか。

市長 基本的には現在の仕組みを維持しつつ、タクシーを活用した新しい制度を準備が整えば29年度から実施する。

議員 活気ある住みよい町をつくるには市長をはじめ、職員、議員が一つになり、皆が笠岡のことを考え「一人のためにみんなが考える」そんな町を目指していかねければならない。どうか力をあわせて笠岡をそういう町につくっていきましよう。



やまもととしあき
山本俊明 議員

2人の市長の歩みを どう次につなげるのか

議員 第6次笠岡市総合計画は、高木元市長が立ち上げ2年間、三島前市長が4年間、締めくくりの2年間を小林市長が受け持つ事になる。二人の市長の歩みをどう引き継いで第6次総合計画を取りまとめ、第7次総合計画につなげるのか具体的な考えをたずねる。

市長 子供たちが生まれて良かった・住んで良かったと思うような笠岡にしたい。第6次総合計画における目指すべき将来像も私が目指す将来の笠岡市の姿も、笠岡の発展を目指す意味では方向性の異なるものではない。第7次総合計画には新しい内容を盛り込むよう検討する。高木元市長と三島前市長に直接会って意見を伺いながら進めたいと考えている。



総合計画での 農業の位置付けは

議員 我が国においては、古くから「農は国の本」という理念が流れている。しかし現実を見ると生産性の拡大と大規模化・効率性と収益性といった市場原理が、この理念を食い破り、日本の農業は競争力強化の一点に向けて走りつつある。もうかる農業、稼げる農業が挫折すれば日本の農業は自然死を待つだけなのか、日本の農業は崖っぷちに立たされているとある名誉教授は述べられている。笠岡の農業も同じと考える。第7次総合計画の中で笠岡市の農業をどのように位置付けて進めるのか市長の考えをたずねる。

市長 これまでの農業施策の取り組みを推進し、第7次総合計画では安全でおいしい笠岡の農産物をPRし、農業振興を図っていく。